

第1章 日立市の概要

1 位置

日立市は、関東平野の北端、茨城県の北東部に位置しており、南北 25.9km、東西 17.9km、面積 225.73 km²を有しています。

東は太平洋に面して風光明媚な海岸線を有し、西には阿武隈山地の支脈である多賀山地が連なり、温暖な気候と海・山の豊かな恵みを享受しながらも、東京圏に近い、茨城県北部の中核都市です。



2 地理的環境

日立市の平野部は、太平洋に面し、南北に長く、JR常磐線、国道6号、常磐自動車道が平行して南北に貫いています。

市街地は、JR常磐線の各駅周辺に立地した大規模工場を中心として形成され、次第に山側や南北周辺地に拡大していきました。

市の南側を流れる久慈川は、その源流を茨城県最高峰の八溝山に発し、その沿岸は沖積平野となって田園地帯を形成しています。久慈川の河口域には重要港湾「茨城港日立港区」があり、全国各地や諸外国との海の玄関口になっています。

気候は、山を背にして海に面しているため、一年を通じ温暖な海洋性気候で、関東北部に位置しながらも市街地での積雪はほとんどありません。

南北に長い海岸線は海食崖が連続しており、その間に砂浜海岸が点在し、伊師浜、川尻、会瀬、河原子、水木、久慈浜の各海水浴場は、夏場に賑わいをみせています。また、北部の伊師浜の崖には、国内唯一の「海鵜(ウミウ)」の捕獲場があり、捕獲された鵜は全国の鵜匠のもとへと送られています。

3 日立市の地名の由来

日立市民に親しまれている神峰山の山頂に、神峰神社本殿が鎮座しています。元禄8年、「水戸黄門」として人々に広く知られている、ときの水戸藩主徳川光圀がこの神峰神社本殿に参籠した際、朝日の立ち昇るさまを眺めて、「朝日の立ち昇る光景は秀麗にして偉大なること領内一」といわれたと伝えられています。明治22年4月、町村制施行による町村合併の際、当時神峰山のある宮田村と滑川村が合併して新しい村が生まれましたが、村の長老たちは、新しい村名として、この徳川光圀の言い伝えの中に込められている意を解いて「日立村」と命名したといわれています。

4 人 口

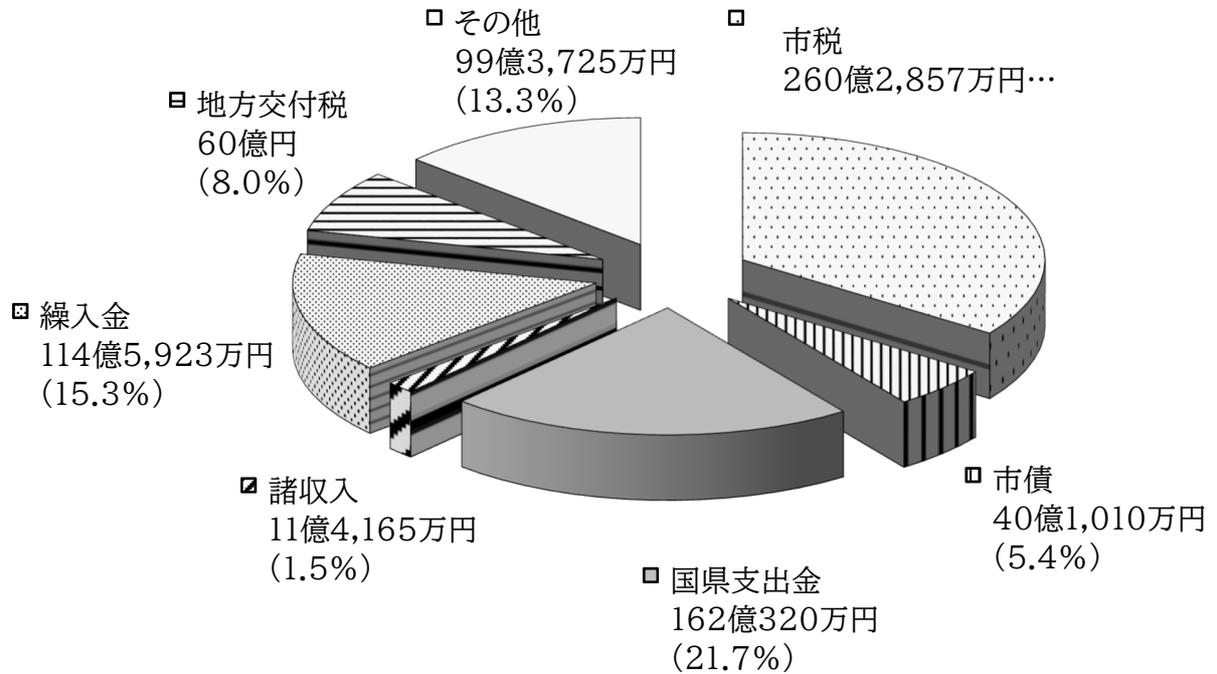
(常住人口、各年4月1日現在)

年 \ 項	世 帯 数	人 口	人口増減	人口密度 (人/k㎡)	1世帯当たり の平均人口
平成26年	78,058	186,132	△ 2,261	825	2.38
平成27年	77,867	183,760	△ 2,372	815	2.36
平成28年	78,570	183,732	△ 28	815	2.34
平成29年	78,373	181,412	△ 2,320	804	2.31
平成30年	78,318	179,207	△ 2,205	794	2.29
平成31年	78,451	177,088	△ 2,119	784	2.26
令和2年	78,131	174,639	△ 2,449	773	2.24
令和3年	77,968	172,274	△ 2,365	763	2.21
令和4年	77,428	169,474	△ 2,800	751	2.19
令和5年	76,964	167,501	△ 1,973	742	2.18
令和6年	76,505	164,538	△ 2,963	729	2.15

5 財政

令和6年度一般会計歳入歳出予算構成比

〈歳入〉 747億8000万円



〈歳出〉 747億8000万円

